

2023年9月期 決算説明会

株式会社メディネット

(証券コード2370)

2023年11月29日

2023年9月期総括

代表取締役 社長 久布白 兼直

単位：百万円

	2023年9月期	前年同期	前年同期比
売上高	661	633	104.4%
研究開発費	496	565	87.9%
営業利益	△1,425	△1,333	

VISION2030

メディネットは、病気やけがを治すとともに、
健康維持・改善に寄与することにより、
Well-Being社会
（“身体的・精神的・社会的に良好な状態にある社会”）
に貢献する
Healthcare Innovating Companyを目指す

経営方針
1

メディネットの強み・経験を最大限に活かした成長

- ・ 特定細胞加工物製造受託の拡大
- ・ CDMO事業の基盤強化
- ・ 再生医療等製品の開発の加速化と新規シーズの育成

経営方針
2

環境の変化に対応し、継続的成長に向けた変革の推進

- ・ 当社事業の収益性/生産性の向上
- ・ 当社事業へのシナジー効果、VISIONに合致する新規事業の育成

経営方針
3

会社基盤の強化

- ・ 「先を見据え、自ら一步先の考動ができる」人財への活性化
- ・ DX実現に向けた社内環境整備の加速化

経営方針
1

メディネットの強み・経験を最大限に活かした成長

- ・ 特定細胞加工物製造受託の拡大
- ・ CDMO事業の基盤強化
- ・ 再生医療等製品の開発の加速化と新規シーズの育成

2023年9月期の主な進捗

- ・ 新規加工技術「NKT細胞活性化樹状細胞」の受託開始
- ・ 新規加工技術「脂肪由来間葉系幹細胞(ASC)」の加工受託準備開始
- ・ 新規加工技術「歯科領域における新たな骨造成治療法」の共同開発
- ・ ヤンセンファーマ社の治験製造受託継続
- ・ 九州大学との共同研究(α -GalCer/DC)
「慢性心不全患者を対象とした医師主導Phase IIb試験」

経営方針
2

環境の変化に対応し、継続的成長に向けた変革の推進

- ・ 当社事業の収益性/生産性の向上
- ・ 当社事業へのシナジー効果、VISIONに合致する新規事業の育成

2023年9月期の主な進捗

- ・ がんの予防/早期発見・早期治療に係る新規事業の創出に向け、ココロミル社に出資
- ・ 今後も予防分野等での新規事業の創出・育成を目指し、外部企業との事業提携等を推進

経営方針
3

会社基盤の強化

- ・「先を見据え、自ら一步先の考動ができる」人財への活性化
- ・DX実現に向けた社内環境整備の加速化

2023年9月期の主な進捗

- ・人財活性化に向け、人事制度の見直し、教育研修の強化
- ・DX実現に向け、情報システム化計画推進プロジェクトを加速

業績・業績予想

取締役 経営管理部長 落合 雅三

免疫細胞加工受託件数の回復、技術移転一時金等により売上が増加

(単位：百万円)	2022年9月期 累計実績(A)	2023年9月期 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額(B)-(A)	増減率%
売上高	633	661	27	4.4
営業損失 (△)	△ 1,333	△ 1,425	△ 92	-
経常損失 (△)	△ 1,314	△ 1,419	△ 104	-
当期 純損失 (△)	△ 1,254	△ 1,437	△ 183	-

■売上高は、特定細胞加工物製造業での免疫細胞加工受託件数の回復、技術移転一時金に加え、CDMO事業の売上増加等より、661百万円（前年同期比4.4%増）

■営業損失は、研究開発費の支出時期の遅れ等による減少の一方、販売費の増加等により、販売費及び一般管理費が1,524百万円（前年同期比4.3%増）となった結果、1,425百万円（前年同期は営業損失1,333百万円）

■経常損失は、加工中断収入11百万円、投資事業組合運用損10百万円等により、1,419百万円（前年同期は経常損失1,314百万円）

■当期純損失は、投資有価証券売却益6百万円、保険解約損16百万円等により、1,437百万円（前年同期は当期純損失1,254百万円）

2023年9月期 業績 売上総利益、販売管理費

(単位：百万円)	2022年9月期 累計実績(A)	2023年9月期 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額(B)-(A)	増減率%
売上高	633	661	27	4.4
売上総利益	127	98	△ 29	△ 23.1
売上総利益率%	20.2	14.9	-	-
販売管理費	1,461	1,524	63	4.3
研究開発費	565	496	△ 69	△ 12.1
販売費	112	168	55	49.9
一般管理費	783	859	75	9.7

免疫細胞加工受託件数の回復、技術移転一時金等により売上が増加

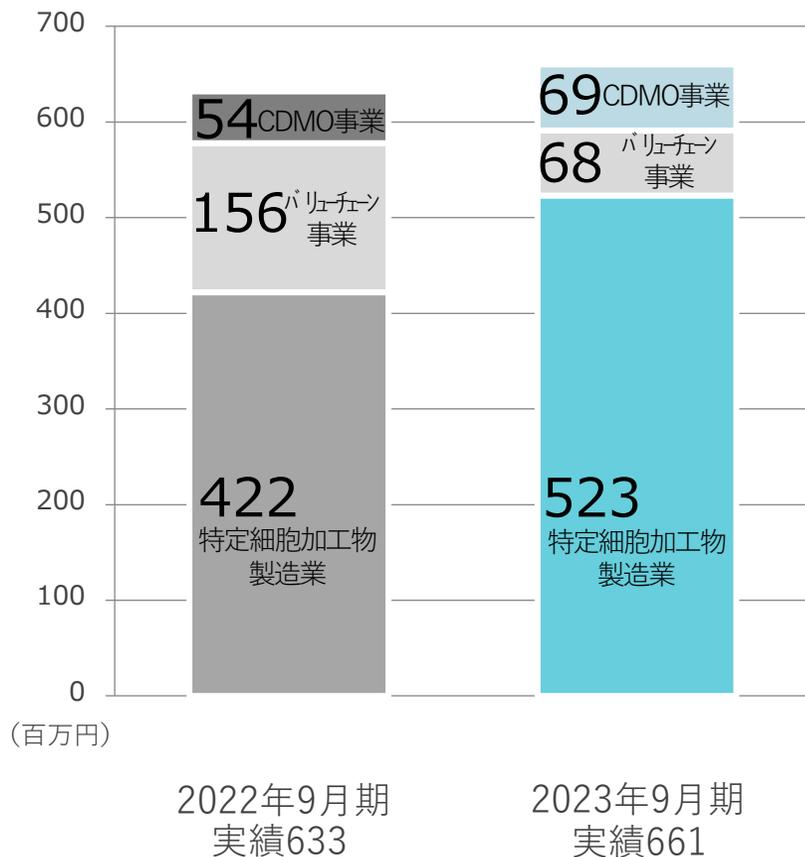
売上高

売上高は、バリューチェーン事業の再生医療関連サービスの売上が大幅に減少した一方で、**特定細胞加工物製造業での免疫細胞加工受託件数の回復、技術移転一時金に加え、CDMO事業の売上増加等**により、661百万円（前年同期比4.4%増）

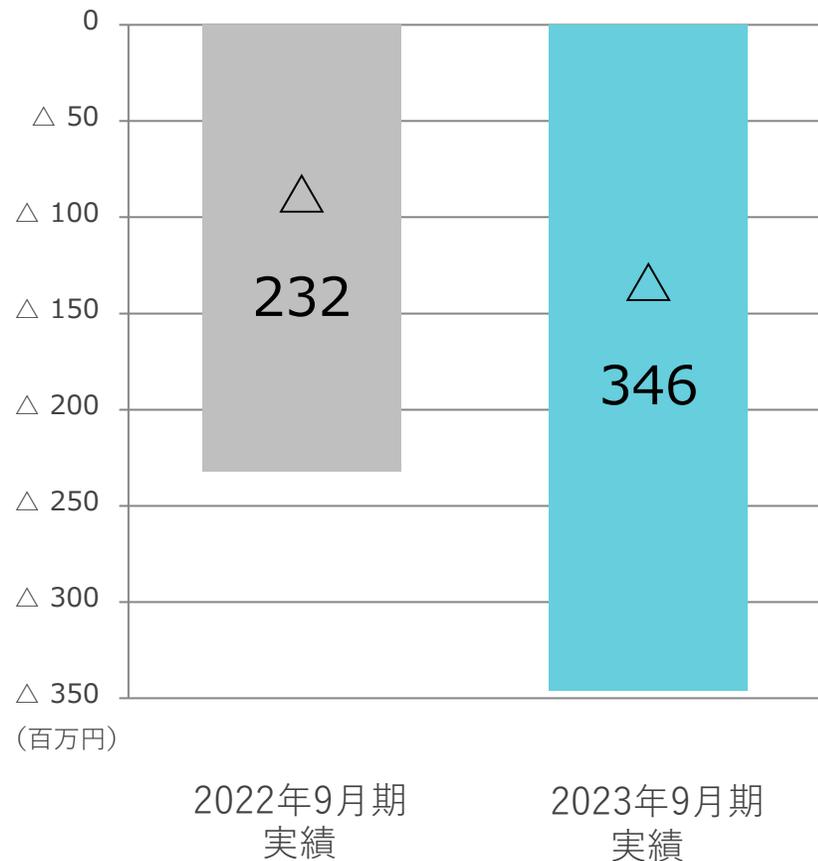
セグメント損失

セグメント損失は、**光熱費等の高騰に加え、将来の細胞加工受託案件の獲得に向けた体制整備費用の増加、販売費の増加等**により、△346百万円（前年同期はセグメント損失△232百万円）

売上高



セグメント損失



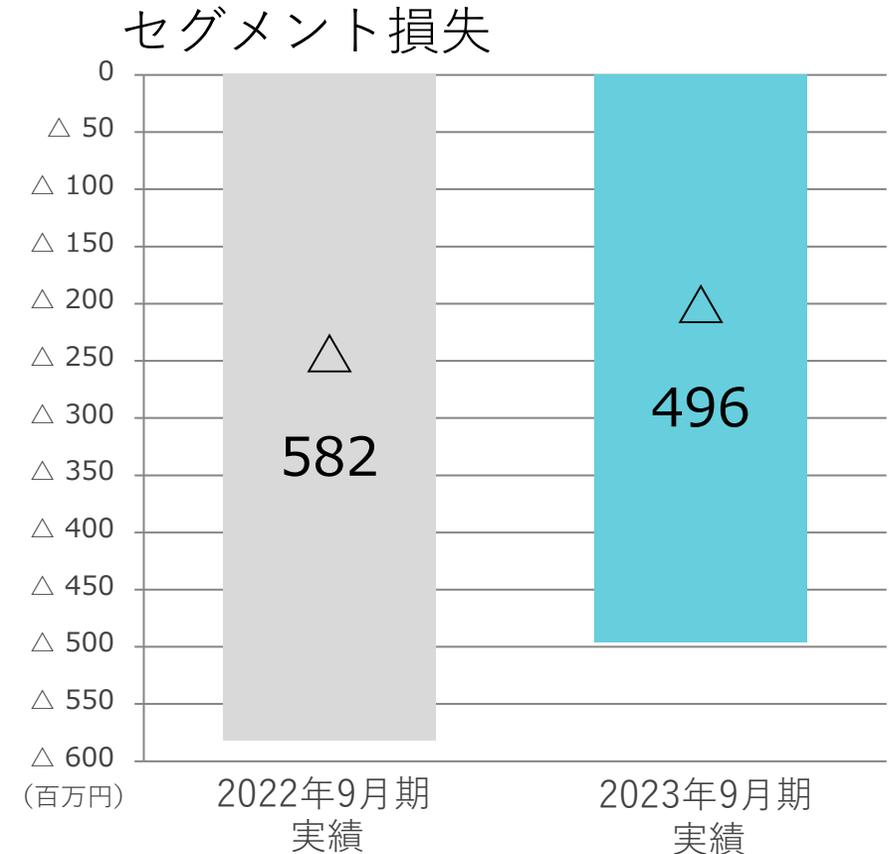
開発加速により、早期の収益化を目指す

売上高

現時点で当社が製造販売承認を取得した再生医療等製品等はなく、少額のライセンス収入のみ

セグメント損失

セグメント損失は、**研究開発費の支出時期の遅れ等**により496百万円（前年同期はセグメント損失582百万円）



■ 第19回新株予約権

割当先	マッコーリー・バンク・リミテッド	新株予約権の潜在株式数	52,500,000株（本新株予約権1個につき100株）
新株予約権発行個数	新株予約権 525,000個	新株予約権の行使価額	当初行使価額 82.65円（下限44円）
発行価額	33,075,000円（新株予約権1個につき63円）	新株予約権の行使期間	2023年3月7日～2025年3月6日

調達する資金の具体的用途	支出予定時期
①慢性心不全治療に用いる再生医療等製品の実用化に向けた開発費用	2023年3月～2026年3月
②本社運転資金	2023年3月～2024年3月
③資本業務提携に伴う株式取得等に係る費用	2023年3月～2026年3月

行使期間	交付株式数	発行総数（個） に対する行使比率	調達額 （百万円）
2023年3月7日～3月31日	1,630,000株(16,300個)	3.10%	136 <small>※含む新株予約権発行価額</small>
2023年4月3日～6月30日	6,521,000株(65,210個)	12.42%	418
2023年7月3日～9月29日	12,174,000株(121,740個)	23.19%	613
2023年9月期 合計	20,325,000株(203,250個)	38.71%	1,167

株式会社ココロミルへ出資

がんの予防、早期発見、早期治療に係わる新規事業の創出・育成を視野に出資



- ・本人が自覚していないメンタルケアの必要性や心疾患の兆候をいち早く捉えるため、心電図を用いて脈拍や自律神経を解析して得られる客観的なデータにより、本人のストレス状態把握
- ・取得した心電図のビッグデータを活用して、自律神経障害に起因するとされている様々な疾患を予測し、早期発見、未病対策を通じて、人々・企業・社会のQOL向上

株式会社ココロミル
東京都新宿区西新宿 6 - 2 - 16 菅野ビル 2F

代表取締役 林 大貴
事業内容：自律神経及び不整脈を解析する健康サービスの提供

資本金：1億3861万円（2023年8月28日時点）
設立：2021年11月1日



- ・免疫細胞の働き、作用機序等に係る知見
- ・VISION2030；病気やけがを治すとともに、健康維持・改善に寄与することにより、Well-Being社会（“身体的・精神的・社会的に良好な状態にある社会”）に貢献する Healthcare Innovating Companyを目指す



予防分野等の新規事業の創出・育成へ

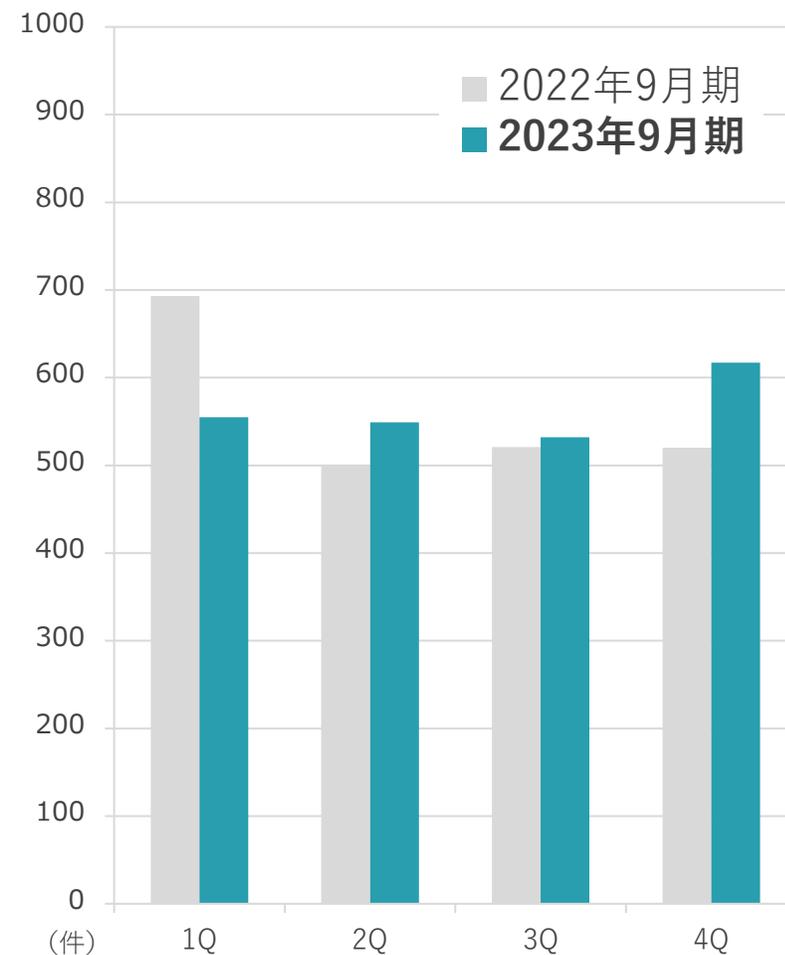
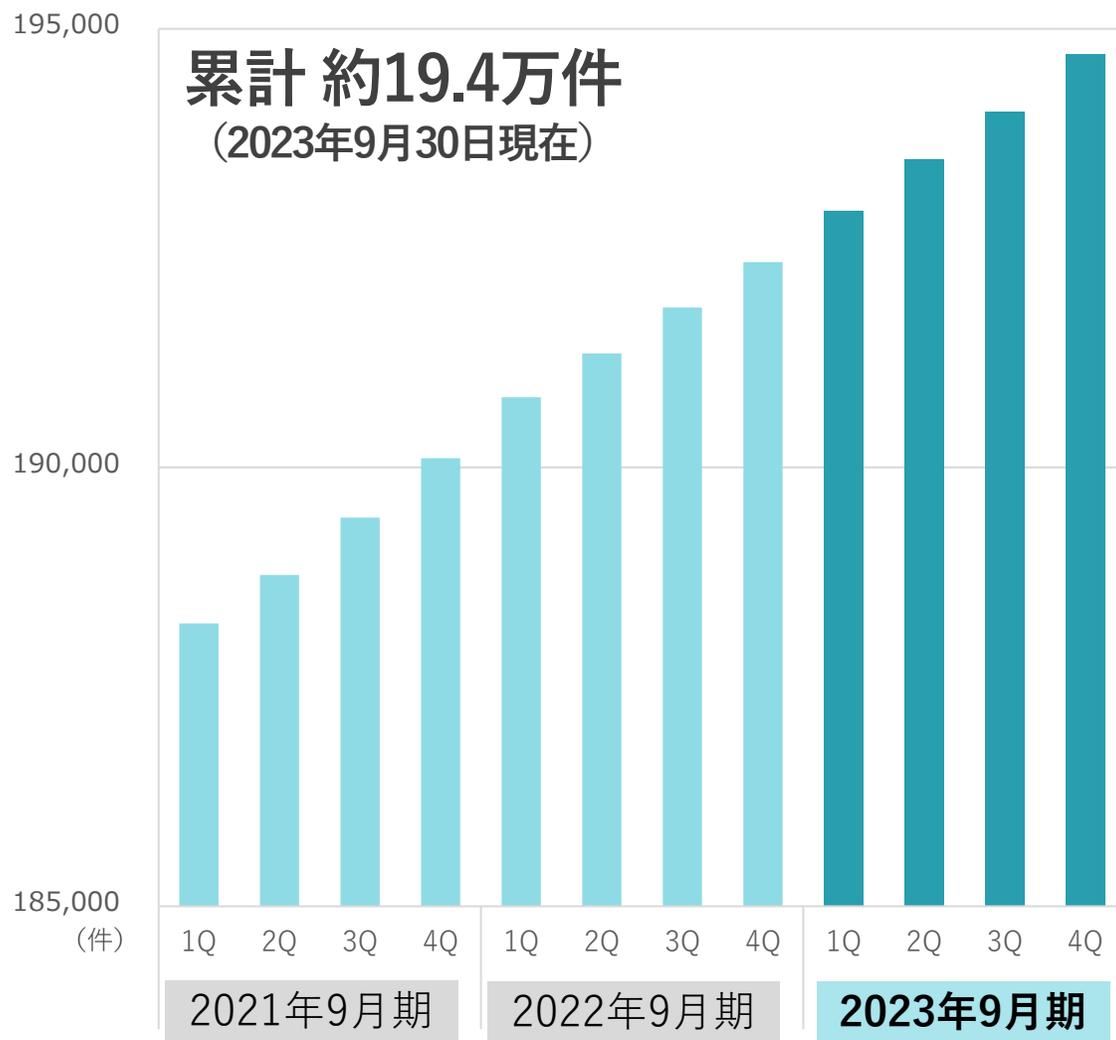
2024年9月期 業績予想

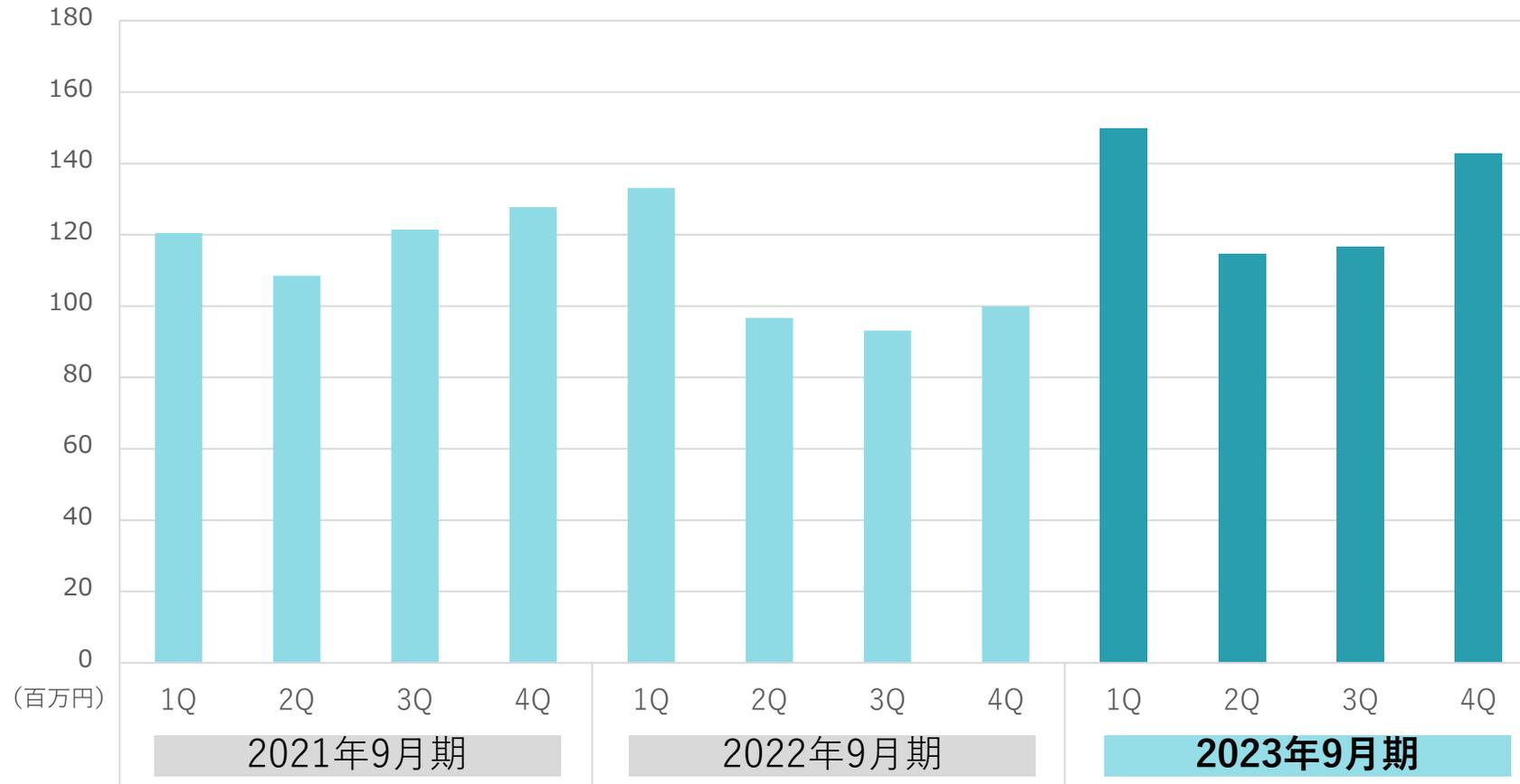
(単位：百万円)	2023年9月期 通期実績	2024年9月期 業績予想	増減額	増減率%
売上高	661	850	189	28.5
細胞加工業	661	850	189	28.5
再生医療等製品事業	0	-	0	-
売上総利益	98	170	72	73.5
売上総利益率 %	14.9	20.0	-	5.0
販売管理費	1,524	1,658	134	8.8
営業損失 (△)	△ 1,425	△ 1,488	△ 62	-
細胞加工業	△ 346	△ 349	△ 2	-
再生医療等製品事業	△ 496	△ 539	△ 43	-
全社経費	△ 583	△ 599	△ 15	-
経常損失 (△)	△ 1,419	△ 1,475	△ 56	-
当期純損失 (△)	△ 1,437	△ 1,479	△ 41	-

細胞加工業

取締役 細胞加工事業部長 近藤 隆重

■ 特定細胞加工物製造件数の実績

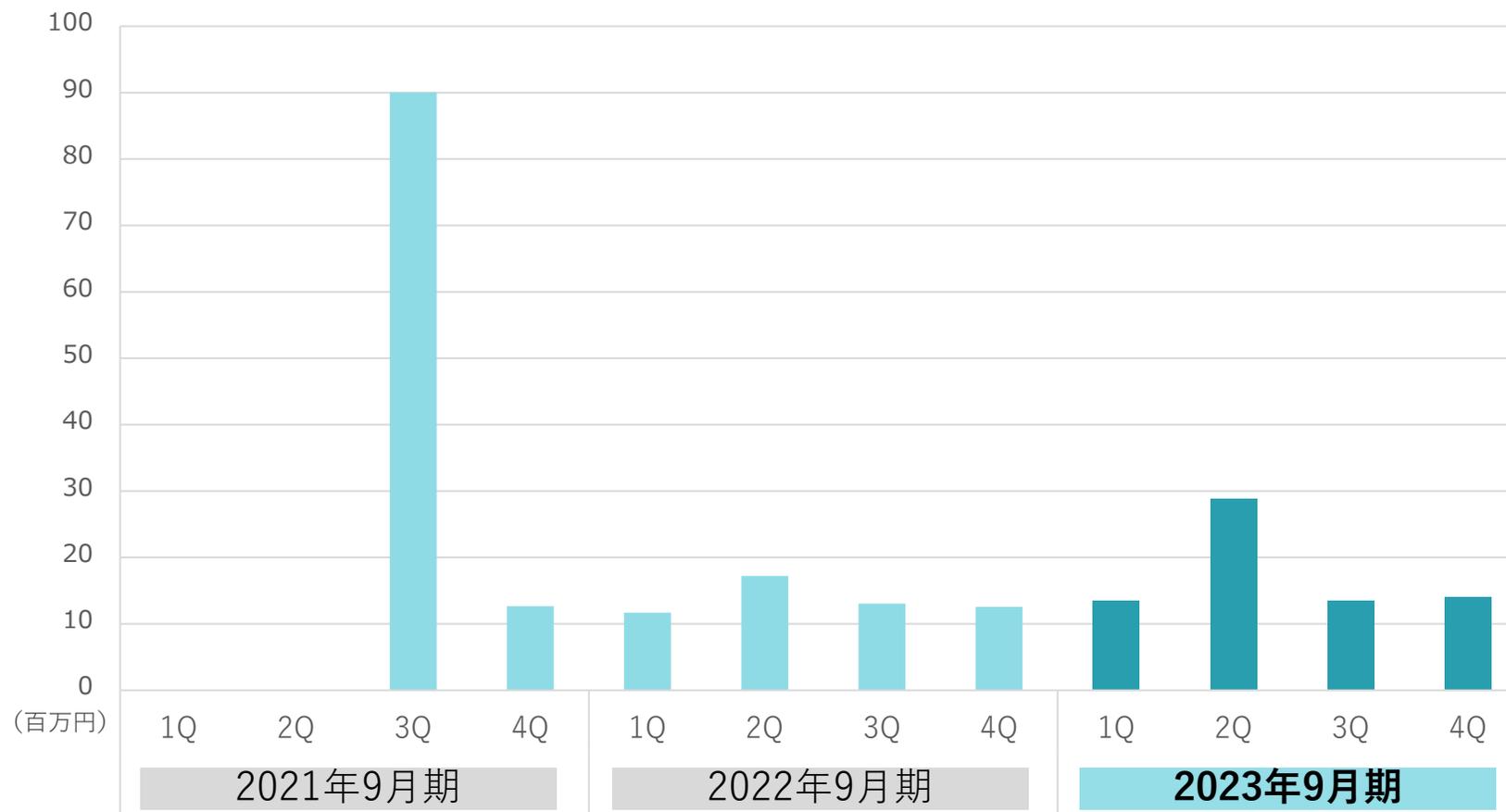




1Qは、新規特定細胞加工物の製造受託に向けた技術移転の一時金の売上を計上
 新型コロナウイルス感染症の影響緩和等で、徐々に免疫細胞加工受託件数が回復基調
 となり、4Qの免疫細胞加工受託は今期最高の売上を達成

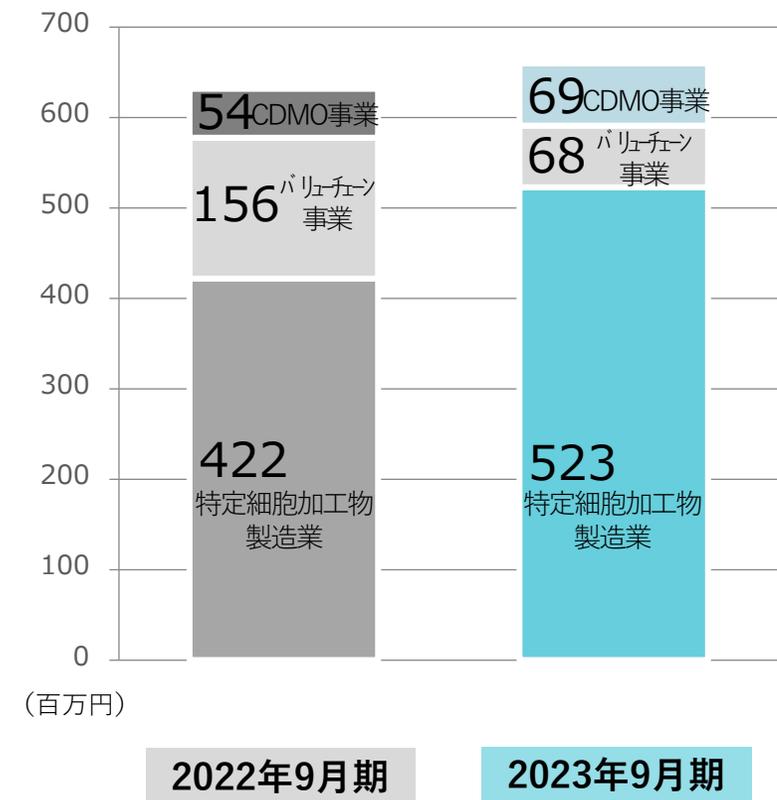
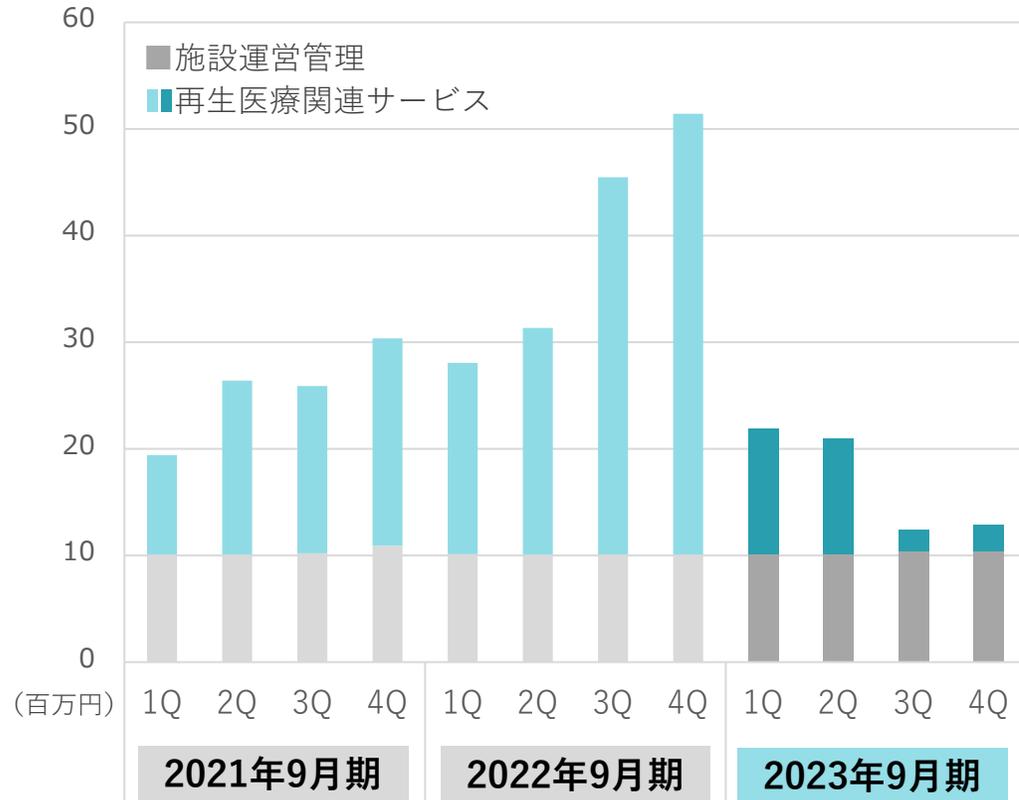
タイトル	Safety evaluation of immune-cell therapy for malignant tumor in Cancer Immune-cell Therapy Evaluation Group (CITEG)
著者	瀧本 理修 他
掲載論文	Cytotherapy (2023 Nov;25(11):1229-1235. doi: 10.1016/j.jcyt.2023.06.007)
概要	免疫細胞治療を実施した3,839例（31,890治療）において、免疫細胞治療に関連した重篤な有害事象は認められず安全に実施可能であると考えられた

タイトル	Effects of adoptive T-cell immunotherapy on immune cell profiles and prognosis of patients with unresectable or recurrent cholangiocarcinoma
著者	木田 明彦 他
掲載論文	International Journal of Cancer (2023 Sep 7. doi: 10.1002/ijc.34716)
概要	切除不能肝内胆管癌14例において、免疫細胞治療後に血中のT細胞、 $\alpha\beta$ T細胞が増えた例では全生存期間（OS）の延長を認めた



ヤンセンファーマ社からの治験製品受託製造等の実績・経験を活用し、**新たな受託案件獲得に向けた活動実施**

2023年9月期 細胞加工業 / バリュチェーン事業 売上高



2023年9月期より、再生医療関連サービスのリソースをシフトし、細胞加工事業の主となる特定細胞加工物製造業、CDMO事業に注力

Medigen社(台湾)の提携医療機関における治療提供開始

当社 $\gamma\delta T$ 細胞技術を用いたがん免疫細胞治療の提供に関してMedigen社の提携医療機関における治療提供開始、台湾規制当局から承認取得

承認月	医療機関名	所在地	ステータス
2023年 2 月	新光吳火獅紀念醫院 (SHIN KONG WU HO SU MEMORIAL HOSPITAL)	台北市	登録手続き中
2023年 9 月	秀傳醫療社團法人秀傳紀念醫院 (Show Chwan Memorial Hospital of Show Chwan Medical Foundation)	彰化県彰化市	登録手続き中
2023年10月	秀傳醫療財團法人彰濱秀傳紀念醫院 (Chang Bing Show Chwan Memorial Hospital of Show Chwan Medical Foundation)	彰化県鹿港鎮	提供開始

【今後の予定】

- ・ 継続的な治療提供・細胞加工の実施
- ・ Medigen社の提携医療機関より各市・県の衛生局へ登録作業を実施中
- ・ その他、新規提携医療機関の探索、交渉等の実施

特定細胞加工物製造業

- ・ 新規加工技術「NKT細胞活性化樹状細胞」の受託推進
- ・ 新規加工技術「脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）」の受託体制整備
- ・ 新規加工技術「歯科領域における新たな骨造成治療法」の共同開発
- ・ 新規加工技術案件の技術移転後の製造受託の獲得
- ・ 臨床エビデンスの取得の推進（先制医療等）

CDMO事業

- ・ ヤンセンファーマ社の製造受託継続
- ・ 新規案件獲得に向けた製造体制強化

バリューチェーン事業

- ・ CPC運営管理既存顧客に対する適切なフォロー（アカデミアネットワーク）
- ・ 細胞加工業に関連したニーズの探索とその事業化

アライアンス活動

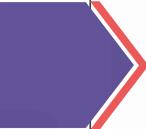
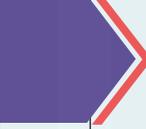
- ・ 国内外の企業とのコラボレーション強化（セルアクシア等）
- ・ 技術ライセンスアウトの展開強化（Medigen社等）
- ・ インバウンド需要の取り込み（中国、韓国、東南アジア）

着実な施策推進による売上拡大

再生医療等製品事業

理事 再生医療研究開発部長 池田 昇司

開発コード等	対象疾患	開発ステージ							状況
		研究	P I	P II	P III	申請	承認	上市	
製品開発	α-GalCer/DC (九州大学との共同研究)								医師主導Phase II b試験（5施設で実施） 2023年9月末で症例登録終了
	MDNT-01 (NeoCart®) 自家細胞培養軟骨	膝軟骨損傷	 						

	開発コード等	対象疾患	開発ステージ				状況
			研究	P I	P II	P III	
研究 開発	HSP105関連免疫療法 (国立がん研究センターとの共同研究)	HSP105を発現している がんに対する免疫療法					実用化に向けた共同研究を実施中
	糖鎖修飾改変Tリンパ球 (2-DGリンパ球)	消化器系がん等					2-DGリンパ球に関する日本特許成立 臨床研究終了、報告書作成 CAR-T、TCR-Tへの応用検討中
	先制医療 (澁志会との共同研究)	先制医療としての 免疫細胞治療					目標症例数投与完了、結果解析 免疫細胞治療による免疫パラメータの変動がみられ、 正ないし負の相関が認められる免疫パラメータを同定
	MUSCAT-assay (岡山大学との共同研究)	がん免疫療法の効果 予測及び効果判定 のための診断薬					免疫チェックポイント阻害薬の効果予測の診断薬としての 可能性を検討中 測定技術の有用性に関する論文発表

九州大学との共同研究 慢性心不全治療を目的とした再生医療等製品

新たな心不全治療法として α -GalCer/DC (HUCV002-01)によるナチュラルキラーT細胞活性化による心筋慢性炎症の制御に注目

- ・ 有害事象等の影響により症例登録に遅延が生じたが、予定登録症例期間満了（2023年9月末）をもって、医師主導Phase IIb試験の症例登録募集を終了
- ・ 目標症例数に未達であるが、観察期間の終了後得られたデータを解析し、今度の開発方針を決定する予定

MDNT-01(NeoCart[®]) 膝軟骨損傷治療に用いる自家細胞培養軟骨

自家軟骨細胞を採取し、体外で膝軟骨（硝子軟骨）に近い状態まで培養するため、長期の臨床効果が期待できる

- ・ Ocugen社でのPhase III試験プロトコル最終化及び治験製品製造体制確立が遅延
- ・ Ocugen社の治験準備の遅延に伴い、日本における開発方針決定も遅延（2024年9月期）

NeoCart[®]: 米国食品医薬品局（FDA）から再生医療先端治療(RMAT)指定

RMATは、再生医療のうち、重篤な状態に対する治療で、予備的な臨床的エビデンスによりアンメット医療ニーズに寄与する可能性が示唆される品目が指定の対象。RMAT指定品目は、優先審査と迅速承認の機会が与えられる。

国立がん研究センター（NCC）との共同研究 HSP-105由来ペプチドに関連したがん免疫細胞治療

種々の腫瘍に過剰発現しているがん抗原タンパク質（HSP-105）に関連した
新たな免疫細胞技術の開発推進

- NCC中面先生らはHLA拘束性HSP105由来ペプチドを同定し、
それを用いた医師主導治験を実施
- NCCでこれまで実施されたHSP105由来ペプチドに関する研究
及び上記医師主導治験の結果をもとに、
新しい免疫細胞治療を開発中であり、現在特許出願準備中

糖鎖修飾改変Tリンパ球(2-DGリンパ球)培養技術

・ 日本特許成立 特許第7374434号 (2023年11月7日発行)

- ・ この培養技術は、2-deoxyglucose (2-DG) を培養液に添加し培養することで糖鎖が改変され、エフェクター活性を高めたT細胞 (2-DGリンパ球) を誘導可能
- ・ 培養工程の変更は容易で、費用も安価
- ・ 現在、多くの機関で開発が進められている遺伝子導入改変免疫細胞 (CAR-T、TCR-Tなど) の抗腫瘍活性の増強にも利用可能
- ・ 種々の免疫細胞治療の基盤技術となる可能性があり、研究開発を継続中

医療法人社団滉志会との共同研究 先制医療※としての免疫細胞治療

がん予防に関わる免疫パラメータ及び健康長寿等に関わる免疫パラメーターを探索し、免疫細胞治療の有用性の確立

- 2021年3月より臨床研究開始、全症例投与完了、免疫パラメータ測定完了
- 免疫細胞治療による免疫パラメータの変動がみられ、正ないし負の相関が認められる免疫パラメータを同定

※先制医療：病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子等による予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療

岡山大学との共同研究 高感度抗体検出技術 MUSCAT-assay※

微量の血液から、疾患の診断等に役立つ自己抗体を高感度で効率的に
定量できる技術を開発
がん免疫療法の効果予測及び判定の診断薬等への応用

- ・ MUSCAT assayが免疫プロファイリング・モニタリングシステム
の高精度化に貢献し、自己抗体バイオマーカー探索の強力なツール
になることについて論文発表

Protein Science DOI : 10.1002/pro.4771

URL : <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/pro.4771>

- ・ がん免疫療法の効果予測の診断薬だけでなく、がん等のリスク
検査への応用も検討中

※Multiple S-cationized antigen beads array assay

製品開発

- 九州大学との共同研究 / 慢性心不全治療を目的とした再生医療等製品 α -GalCer/DCの医師主導Phase IIb試験症例登録終了
試験データ解析後、開発方針を決定（2024年9月期）
- MDNT01 / 膝軟骨損傷治療に用いる自家細胞培養軟骨
MDNT01（NeoCart[®]）の国内開発方針決定（2024年9月期）
- 新規開発候補品の導入

研究開発

- 研究開発品目の早期臨床段階への移行
- 新規研究開発シーズの獲得

早期収益化を目指し開発を加速
研究開発品目の早期臨床段階への移行

この資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。

当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち歴史的事実でないものは、将来の事業に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営陣の現時点における判断に基づいており、顕在化・潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、これらの見通しに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りやデータのダウンロードなどによって生じた障害などに関し、事由の如何を問わず、一切責任を負うものではないことを予めご承知おき下さい。

Appendix

用語集

Appendix 用語集

事業関連用語		説明
1	細胞加工業/ 特定細胞加工物製造業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つである特定細胞加工物製造業は、医療機関で採取された患者様の細胞から、医療機関の委託に基づき、再生・細胞医療で用いる治療用の細胞(特定細胞加工物)を製造し、製造件数に応じて製造委託料を受領する事業。
2	細胞加工業/ CDMO事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるCDMO (Contract Development and Manufacturing Organization) 事業は、再生医療等製品の治験製品および承認取得後の製品の製造受託をはじめ、実用化に係る各種業務を受託し、各種役務に応じた委託料を受領する事業。
3	細胞加工業/ バリューチェーン事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるバリューチェーン事業は、細胞加工関連プロセスから派生する技術・ノウハウなどを提供し、対価を受領する事業。
4	バリューチェーン事業/ 施設運営管理	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、既設の細胞培養加工施設の運営管理業務などを受託するサービス。
5	バリューチェーン事業/ 再生医療関連サービス	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、再生・細胞医療に関連する各種業務を受託するサービス。
6	再生医療等製品事業	再生医療等製品事業は、再生医療等製品の研究開発、製品開発を行う事業。製薬企業へライセンスアウトを行った場合、開発ステージに応じた対価を受領する。また、ライセンスアウトしたパイプラインが製造販売承認を取得した場合、売上高に応じたロイヤルティを受領する。
7	株式報酬制度	一定期間の継続勤務を条件に、譲渡制限付株式を事前交付するインセンティブ報酬制度。

Appendix 用語集

細胞・技術・医療関連用語		説明
1	NKT細胞活性化樹状細胞	NKT細胞は、NK細胞とT細胞の性質を合わせ持つリンパ球の一種であり、直接的にがんを殺傷するほか、サイトカインなどを産生して免疫応答を高めることが知られている。当社が特許権を保有する樹状細胞ワクチン加工技術を活用し、樹状細胞に α -ガラクトシルセラミド（ α -GalCer：スフィンゴ糖脂質の一種。体内では樹状細胞などの抗原提示細胞に取り込まれ、特定の抗原提示分子CD1dを介して、NKT細胞を活性化する）を添加することで、体内のNKT細胞を効率よく活性化することが確認できている。
2	γ δ T（ガンマ・デルタT）細胞	γ δ T細胞は、近年、世界で注目されている免疫細胞の一種で、体内の様々な免疫機構に関与していると報告されている。 γ δ T細胞の中でも、特にV γ 9V γ 2という遺伝子の組み合わせのTCR（T細胞受容体）をもつ γ δ T細胞は、がん細胞に対して強い攻撃能力を有していることが知られており、日本での臨床応用のみならず欧州を中心とした海外での研究開発も進められている。当社の開発した γ δ T細胞細胞培養加工技術は、末梢血中にわずか数%しか含まれていないV γ 9V γ 2T細胞を選択的に活性化し、数千から数万倍に増殖させることができる技術。
3	脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）	間葉系幹細胞は、移植片対宿主病（GVHD）、脊髄損傷、クローン病に伴う複雑痔瘻の治療製品として臨床使用されており、骨や軟骨に対する疾患、心臓疾患、肝疾患、糖尿病等に対する臨床研究も進められている。様々な疾患に対する間葉系幹細胞治療の期待の高まりを受け、当社においてもASCの細胞加工技術の開発に着手し、その細胞加工技術を確立している。
4	α -GalCer/DC	α -GalCer（ α -ガラクトシルセラミド）とは、スフィンゴ糖脂質の一種で、体内では樹状細胞などの抗原提示細胞に取り込まれ、特定の抗原提示分子CD1dを介して、免疫細胞の一種であるナチュラルキラーT細胞（T細胞とnatural Killer（NK）細胞の両方の特徴を持つリンパ球。Tリンパ球、Bリンパ球、NK細胞に次ぐ第4のリンパ球とされている）を活性化する。 α -GalCerをパルスしたDC（自己末梢血単核球由来樹状細胞）とは、末梢血単核球は、末梢血から分離されたリンパ球（T細胞、B細胞、NK細胞等）や単球などを含む単一の丸い核を有する血液細胞で、治療を受ける患者様本人の末梢血単核球から樹状細胞を誘導し α -GalCerを添加することによって作製した、 α -GalCerを細胞表面の抗原提示分子CD1dに提示する樹状細胞。

細胞・技術・医療関連用語		説明
5	再生医療先端治療(RMAT)	米国FDAの制度で、再生医療のうち、重篤な状態に対する治療で、予備的な臨床的エビデンスによりアンメット医療ニーズに寄与する可能性が示唆される品目が指定の対象。RMAT 指定品目は、優先審査と迅速承認の機会が与えられる。
6	HLA	HLA (Human Leukocyte Antigen: ヒト白血球抗原) は、白血球などの細胞表面上に発現する分子。
7	HSP105	HSP105 (Heat Shock Protein105) は、国立がん研究センター先端医療開発センター免疫療法開発分野長中面哲也先生らが、膵がんの患者様のがん細胞と血液を使ってがん抗原を同定する SEREX 法を実施して同定されたがん抗原。HSP105は、精巣以外の正常組織ではほとんど発現はないか弱く発現しているが、大腸がん、肺がん、膵がん、乳がん、胆道がん、食道がん、咽頭がん、神経膠芽腫、メラノーマなど、胃がんや肝細胞がんを除いたほとんどのがんの細胞で過剰発現している腫瘍特異性が高い抗原。構成HSP105由来ペプチドは、構成するアミノ酸配列の内、特にがん抗原特異的細胞障害性T細胞 (Cytotoxic T Lymphocyte: CTL) が強く反応する部分を指す。このペプチドをワクチンに用いることで CTL を効率的に刺激・増殖させることができる。
8	2-DGリンパ球 (糖鎖修飾改変Tリンパ球)	細胞の糖鎖修飾・代謝調節作用を有する2-deoxyglucose (2-DG) を培養液に添加して作製したリンパ球。免疫細胞の分化・増殖・活性化・遊走に細胞内エネルギー代謝制御が重要なことから、2-DGを培養液に添加し培養することで糖鎖が改変され、これまでにない抗腫瘍効果を高めたT細胞を誘導することに成功。種々の免疫細胞治療の基盤技術として、応用可能性に向けて研究開発を推進。
9	CAR-T	キメラ抗原受容体 (Chimeric Antigen Receptor) 導入T細胞 (CAR-T)。
10	TCR-T	T細胞受容体 (T Cell Receptor) は、T細胞の表面に存在する腫瘍抗原由来ペプチドを認識するタンパクであり、それを強制的に発現させるよう遺伝子を導入させたT細胞。

細胞・技術・医療関連用語		説明
11	先制医療	病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子などによる予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療。
12	免疫パラメーター	免疫力に関与する機能や各種細胞数を測定、評価する指標。
13	MUSCAT-assay	MUSCAT-assay (Multiple S-cationized antigen beads array assay) 当社が岡山大学二見教授らとの共同研究で開発したタンパクの可溶化技術を応用した新規な自己抗体迅速測定抗原検査技術。日本、米国及び欧州等で特許取得済み。